



wood-burning stove  
**moku moku**®

## 取扱説明書

ご使用前に必ず取扱説明書をお読みいただき大切に保管してください



朋友金属株式会社



## 安全にお使いいただくために



### 誤った取扱いをすると、使用者が死亡または、重傷を負う可能性があります。

- ・薪ストーブ運転中は本体が高温になります。火災の原因となりますので家具やカーテン等から十分に距離を取って設置してください。
- ・薪ストーブ運転中は全体が高温になります。決して素手で触らないでください。火傷をしないように十分に注意してください。  
操作の際は必ず革グローブ等を着用してください。
- ・薪ストーブ運転中のお部屋でお子様、ご高齢者、配慮が必要な方、ペットなどいらっしゃる場合は、フェンスなどを使用するか保護者の方が常に安全を確保してください。
- ・使用中は部屋は密閉せずに、空気が循環するようにしてください。
- ・薪ストーブの近くで、洗濯物や衣料など燃えやすいものを乾燥させないでください。
- ・スプレー缶や使い捨てライターなど爆発したり引火したりするおそれのあるものは、薪ストーブの近くに置かないでください。
- ・火災の恐れがあるため、ストーブの据付は専門業者に依頼してください。
- ・設置基準に従わない場合、火災など危険な状況を引きおこす場合があります。
- ・生木や乾燥していない薪は、煙が多く発生しますので、絶対に燃やさないでください。又乾燥していない薪を燃やし、異常燃焼すると、ストーブ本体を傷めます。
- ・室内が負圧になると、煙が逆流することがありますので、薪ストーブ点火時は、換気扇を回すのは止めてください。着火時には窓を少し開けてください。
- ・ストーブに水をかけないでください。鋳物面がひび割れる原因となります。
- ・万が一に備え、薪ストーブを置く部屋には消火器を常備してください。

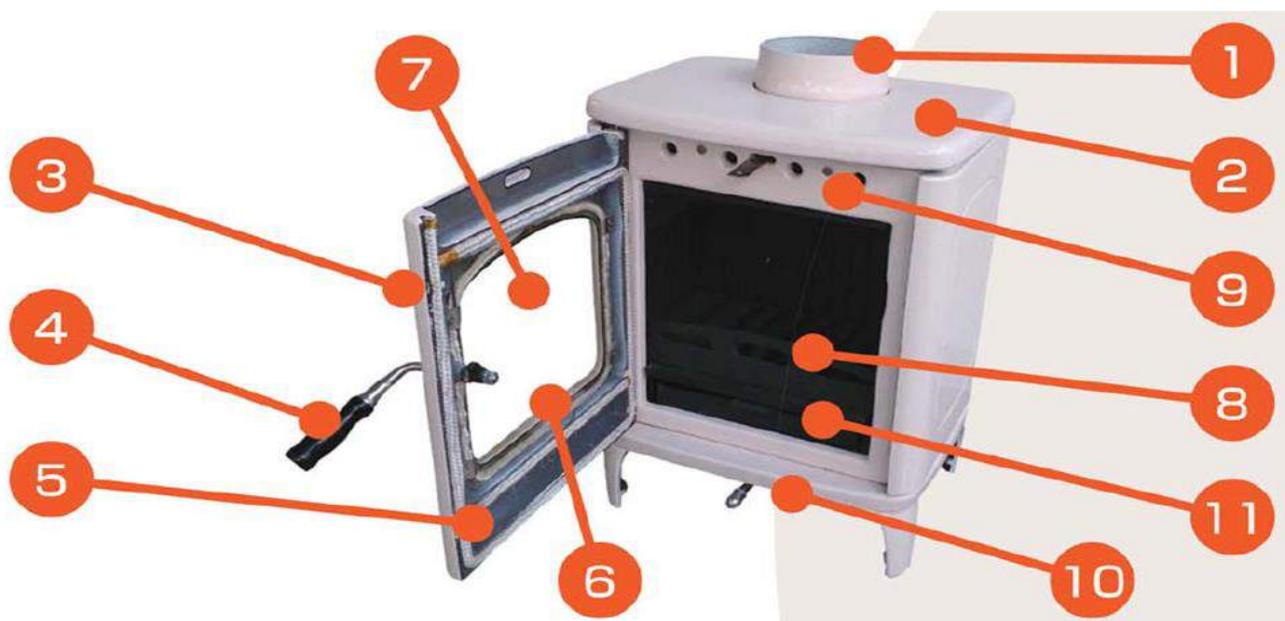


### 誤った取扱いをすると、使用者が傷害を負う可能性、および物的損害が発生する可能性があります。

- ・畳やじゅうたん、フローリングなど可燃物の上に薪ストーブを直接置かないでください。また低温炭化を防ぐため周囲の可燃物が60℃にならないように配慮してください。
- ・最低でも年に一度は煙突掃除を行い、必要な場合はメンテナンスも行ってください。(使い方、施工方法、焚いている薪の質等によっては、より頻繁なメンテナンスをお奨めします。)
- ・薪ストーブの近くに薪を置いたり、薪ストーブの側で薪を乾燥させたりしないでください。
- ・薪投入時以外、燃焼中は薪ストーブの扉は閉めてください。
- ・薪以外の燃料(塗装された木、合板、新聞紙、プラスチック、ビニール、発泡スチロールなど)は絶対に燃やさないでください。
- ・高温で薪ストーブを焚くと、本体を傷めることとなります。必ず薪ストーブ用の温度計を使い、適温を守って運転してください。



## 各部の名称と機能

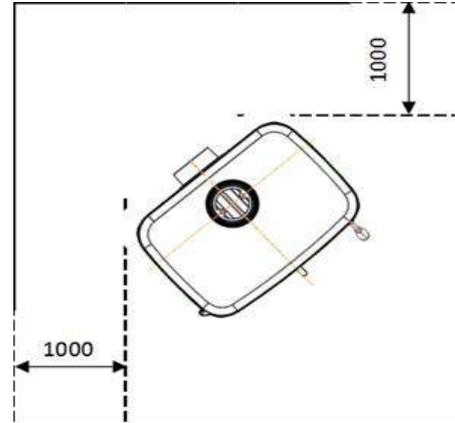
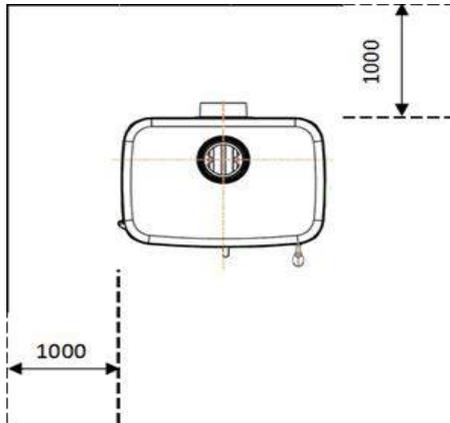


No.	名称	機能
1	煙突接続口	煙突を接続します。
2	トップ（天板）	必ず、ストーブ用温度計を取り付けてください。
3	ドア	燃焼室ドアです。
4	ドアハンドル	ドアの開閉を行います。燃焼中は熱くなりますので、必ず革グローブをはめて操作してください。
5	ドアガスケットロープ	余分な空気がストーブに入ってくるのを防ぐためのパッキンです。
6	ガラスガスケットロープ	消耗品ですので、劣化すれば交換が必要です。
7	ドアガラス	耐熱ガラスを使用しています。
8	薪止め	薪の倒れ止めになります。
9	1次空気調整口	ストーブ内に入ってくる燃焼用空気量を調整し、火力を調整します。
10	2次空気調整口	
11	灰受け皿	引き出して灰を廃棄できます。

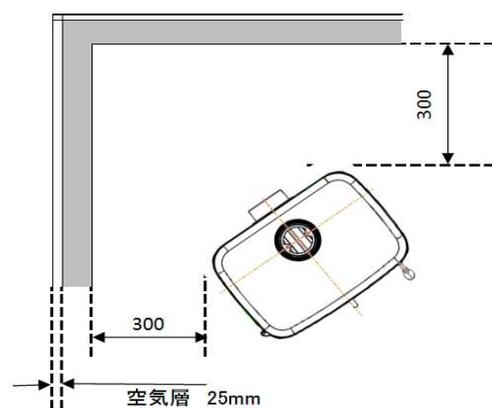
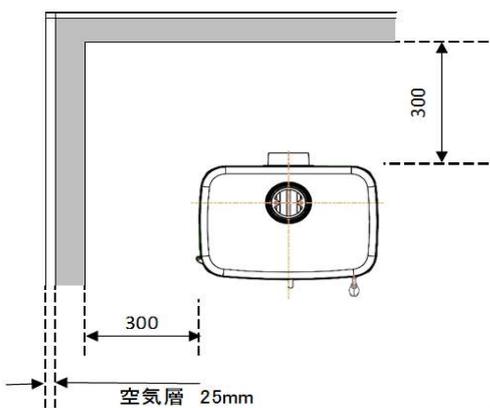


## 設置基準

### 遮断壁を設けない場合



### 遮断壁を設ける場合



**\* ストープの下にも耐火処理が必要です**



## 慣らし焚き

薪ストーブは熱に強い鋳物が素材として使われていますが、特に急熱・急冷を得意としない鋳鉄は、いきなり高温まで上げてしまうと、最悪の場合、変形や割れてしまうことがあります。  
この現象を防ぐために慣らし焚きが必要です。またこの慣らし焚きは、まったくの使い始めだけでなく、シーズンの初めに、まだ薪ストーブが連続運転に慣れていない時も同様の扱いをしてください。

- \* 慣らし焚きは、温度計で 300℃ 以上にならないように空気調整をして焚いて下さい。300℃ になったら薪を追加せず、そのままの状態ですトープを常温まで冷まして下さい。
- \* ご購入後、初めての慣らし焚き時には、薪ストーブに塗ってある耐熱塗料から煙がでます。窓を開けて換気をしながら焚いて下さい。(慣らし焚き 3 回程度で耐熱塗料からの煙も出なくなります。)
- \* 慣らし焚きはシーズン毎に 3 回ほど行って下さい。

## 使用方法

- ① 温度計を薪ストーブトップに設置して下さい。  
(燃焼時の適温は 200℃～300℃です。300℃以上の継続燃焼は、薪ストーブが破損する恐れがありますので、空気を絞って温度を調整してください。)
  - ② なるべくたくさんの薪(燃料となる薪は十分に乾燥させたものをお使い下さい。)を炉内に入れます。
  - ③ 空気調整は全開。
  - ④ マッチなどで着火します。
  - ⑤ ドアを閉めます。
  - ⑥ 空気調整は全開のまま、トップの温度が 300℃になるまで燃焼させます。
  - ⑦ 300℃を超えたら、炎の状態を確認しながら空気調整を行って下さい。
- ※ 燃焼温度が高いとストーブが破損する恐れがあります。また低温では煙が出る場合があり、煙突内に煤もたまりやすくなります。

### 【薪の追加】

- ・薪の追加は炎の状態やトップ温度の状態を見ながら適当な間隔で行って下さい。
- ・薪を追加する場合は、なるべくたくさんの薪を炉内に入れて下さい。耐火ガラスに薪が当たらないように薪を投入してください。
- ・薪を追加した場合は温度計が 300℃になるまで空気調整を全開にして下さい。  
(煙突から煙が出にくくなります。) 300℃を超えたら、炎の状態を確認しながら空気調整を行います。

### 【消火方法】

薪をくべるのやめ、火の勢いが徐々に落ち、ゆっくりと終えつきます。  
燃えつきた時が消火を意味します。

### 【灰の後始末】

- ・灰はなるべく抜かずに、多めの状態で焚いて下さい。ストーブ内の灰は全て取り除かないでください。1cmほど残しておきますと次の着火がしやすくなりますし、断熱効果が増し、さらに薪ストーブの保護にもなります。
- ・灰を抜く場合は、薪ストーブの消えている時に行ってください。抜き取った灰は、蓋付きの燃えない材質のバケツ等にしまって下さい。灰は高温で残り火がありますので完全に温度が下がるまで保存して下さい。

### 【煙突の点検、清掃】

- ・煙突は 1 年に 1 回以上点検・清掃して下さい。ご自分で清掃できない場合は設置業者にご依頼下さい。

### 【ガスケットロープの点検、交換】

- ・ガスケットロープが破損・へたっていないか点検して下さい。交換が必要な場合は、専用のガスケットロープ・接着剤を用いて交換して下さい。ご自分で交換できない場合は設置業者にご依頼下さい。



## 製品保証規定

保証期間内に、正常な使用状態において、万一故障・異常が発生した場合は、無料で修理または、修理が困難であれば交換いたします。

保証期間内でも、次の場合は保証が適用されません。

- ① 製品保証書の提示がない場合
  - ② 転売や又貸しされた場合
  - ③ 不当な修理や改造が原因の場合
  - ④ お買い上げ後の移動、落下あるいは輸送による故障または破損
  - ⑤ 火災、地震、水害、落雷などの天災による破損及び故障
  - ⑥ 不適切な使用による破損及び故障
  - ⑦ ガラス（割れ、白濁など）・ガスケットロープ等の炉内の取外し可能な部品
  - ⑧ 使用中に生じたキズ、破損及びストーブ燃焼による外観（色等）の変化
- ※ その他、ご不明な点がございましたらお問い合わせください。



## 保証書

### 【お客様へ】

本書は、販売元である朋友金属株式会社が本書記載の保証規定の定めに従って無料修理または修理が困難であれば交換をお約束するものです。

お買い上げ日から1年以内に万一、正常な使用状態において、故障・異常が発生した場合は、お買い上げの販売店にご連絡下さい。

### 【販売店様へ】

本保証書にご販売店印とご購入日の日付を記載の上、お客様にお渡しください。

お買い上げ日            年    月    日

【販売店】